

宮沢賢治と矢巾町

「銀河鉄道の夜」の舞台は南昌山

第7回

宮沢賢治と矢巾町のかかわりを紹介するこのコーナー。今回は賢治が親友である藤原健次郎（白沢出身）との思い出や南昌山などを題材として詠った詩の一部を紹介し、解説は「矢巾町宮沢賢治を語る会」の松本隆会長によるものです。

【岩頸列】

西は箱ヶと毒ヶ森、
椀コ、南昌、東根の、
古き岩頸の 一列に、
氷霧あえかのまひるかな。

からくみやここにたどりける、
芝雀は旅をものがたり、
「その小屋掛けのうしろには、
寒げなる山によきによきと、
立ちし」とばかり口つぐみ、
とみにわらひにまぎらして、
洪茶をしげにのみしてふ、
そのことまことうべなれや。

山よほのほのひらめきて、
わびしき雲をふりはらへ、
その雪屋根をかゞやかし、
野面のうれひを燃し了せ。

『文語詩稿 一百篇』 四五



藤原健次郎の生家で西を向いて撮影
4つの山をきれいに見ることができます

【解説】箱ヶ森、毒ヶ森、南昌山、東根山の山並みの美しさを詠った詩。

賢治が教員時代に東京で寄席に入ったとき、落語家（芝雀）が盛岡での興行について「盛岡の西に寒そうな山が立ち並んでいた」と話したのを聞いて、健次郎の家から見たきれいな山並みを思い出したことを詩にしたものです。

【秘境】

漢子 称して秘処といふ
その崖上にたどりしは
樺柏に囲まれて

ほうきだけこそうち群れぬ

漢子 首巾をきと結びて

黄ばめるものは熟したり

なはそを集へわれはたゞ

白きを得んと気おひ云ふ

漢子が黒き双の脚

大コムパスのさまなして

草地の黄金をみだるれば

峯の火口に風鳴りぬ

漢子は鞆を山と負ひ

東に青き野をのぞみ

にと笑みにつゝ先立ちぬ

『文語詩稿未定稿』

【解説】この作品は、童話「谷」を詩に書き換えたものです。

「秘境」は、南昌山五合目から稜線に沿って2キロほど南に進んだところにある「馬の背渡り」と呼ばれる場所のことで（童話の中では「橋渡」と表現されている）、馬の背中くらいの狭く鋭く尖った峰があります。賢治はこの場所の下の河原で健次郎とキノコ採りをした思い出をもとに、童話「谷」を作ったと考えられます。

（次号へ続く）

※次回は宮沢賢治が藤原健次郎との思い出や南昌山などを題材にして書いた童話を紹介します。

マイナンバーカードの休日交付について



町では、マイナンバーカード（個人番号カード）の休日交付を行います。平日の来庁が困難な方はこの機会にぜひご利用ください。

▶対象 町から「個人番号カード交付通知書（はがき）」が送付されている方

※個人番号カードには顔写真が付いており、交付時に本人と照合するため、原則として申請者本人が来庁する必要があります。

▶日時 5月29日(日) 午前8時30分～正午

▶場所 役場1階住民課

▶持ち物 個人番号カード交付通知書（はがき）、通知カード（緑色）
住民基本台帳カード（お持ちの方のみ）
本人確認書類（運転免許証など顔写真付きのものは1点、顔写真がないものは2点
※いずれも有効期限内で、住所と氏名が個人番号カード交付通知書と相違ないもの）

▶問い合わせ 住民課戸籍住民係（☎ 611-2502）
※マイナンバーカードについて詳しくは、地方公共団体情報システム機構の「マイナンバーカード総合サイト」をご覧ください。